

令和5年度 関西創価高等学校 学校評価

1. めざす学校像

基本方針	「創造性豊かな世界市民」の育成
学校運営	困難に負けない強さと社会の変化に柔軟に対応するしなやかさを持ち、自他共の幸福のために貢献する「創造性豊かな世界市民」の育成をめざす。「校訓」、「創立者とともに」に示された「指針」を諸活動の根幹に置き、「主体的・対話的で深い学び」を軸に、地球的課題の探究を進める。

2. 教育活動における重点項目(中期的目標)

〔I〕「創造性豊かな世界市民」の育成

- (1)「校訓」「指針」を学び、友人と語り合う中で、自らの行動へと結びつける
- (2)「グローバルリーダー」としての資質の育成
- (3)英語力の強化(CEFR・B1レベル以上)
- (4)ユネスコスクールとしての活動を活発化

〔II〕確かな学力で生徒の可能性を最大限に

- (1)生徒の興味・向学心を引き出す魅力ある授業の創造
- (2)各教科の授業に「探究」を導入
- (3)家庭学習の定着により自学自習習慣の確立
- (4)キャリア教育の充実
- (5)豊かな読書環境の醸成

〔III〕安心・安全の学校づくり

- (1)キャンパス・校舎・通学路の安全確保
- (2)生徒指導全般の見直し
- (3)いじめ・暴力を未然に防止
- (4)多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」を推進

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析[令和6年3月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 ・昨年同様、授業の課題への取り組み、授業への参加について、共に半数以上の生徒が高い自己評価をしている。 ・授業で配布される資料、教員の話す声、質問への対応を6割の生徒が高評価である。 ・上記の結果、授業の総合評価についても6割の生徒が最上位の評価である。</p> <p>○保護者 ・英語力の強化、ユネスコスクール、家庭学習、生徒指導についての評価が他の項目と比べて低い。 ・「校訓」等の学びと実際の行動へ結びつきへの評価が高い。</p> <p>○教職員 ・家庭学習の定着と読書環境の醸成について手ごたえを感じている。 ・昨年と比較し、生徒指導全般の見直しが停滞していると感じている教員が多い。</p>	<p>・中学で「探究」のスキルを育てることに傾注してきたが、高校でその成果が出ているかが気になっている。中学出身者が活躍していると聞いて、安心をしている。</p> <p>・グローバルリーダーの育成のために卒業生に協力をお願いしているとのことだが、それこそが創価学園の魅力であると思う。これからも期待したい。</p> <p>・すでに卒業して久しいわが子が、いまでも生徒時代にGRITに取り組んだ繋がりで交流を続けている。自分自身が学園生になればと願うほどである。</p> <p>・今後「合理的配慮の義務化」に伴い、多様性に対する配慮が必要となると思うが準備は進んでいるかが気になるところである。</p>

【分析】

昨年に続き、授業の諸項目について高い評価を受けた。教員が日々教材研究や授業スキルの向上に努めていることが生徒に承認されていることがうかがえる。この評価に満足することなく、引き続き努力を重ねていきたい。
「家庭学習の定着による自学自習習慣の確立」について、教員の自己評価と保護者の評価の間に乖離が起こっていることから、教員が考える家庭学習と保護者が求める家庭学習のイメージに齟齬があることがうかがえる。教員と保護者で「家庭学習」のイメージを共有することから始める必要がある。
「合理的配慮の義務化」については、保護者や有識者の関心が高い。本校でも、じっくりと検討し取り組んでいく必要がある。

3, 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	取組みの内容	評価	改善点
活 ユ ネ ス コ ・ ス ク ー ル と し て の 活 動 を 発 化	ユネスコスクールとしての特色づくりに取り組む	ユネスコスクールとしての各種取組みに積極的に参加することを通して、本校の特色を高めていく。 里山保全の活動に継続して取り組んでいく。 ユネスコスクール同士の交流に挑戦する。	ユネスコスクール事務局からの紹介で、韓国の清道高校と交流することができた。コロナ禍で他校との交流が難しい中、とりわけ海外の学校との交流の流れが止まってしまった中で、新たな交流をスタートすることができたことはよかった。	今回ユネスコスクール事務局からのご紹介で、海外の学校と交流することができたが、今後は本校のネットワークを活用しての交流にも挑戦していきたい。 里山保全の活動については、継続して取り組んでいるが、教職員の担当者を増やして、持続可能な形にしていかななくてはならない。
豊 か な 読 書 環 境 の 醸 成	教員の積極的な関わりを通し、名著・長編読了に挑戦する生徒を増やす	教員による「Book Navi Week」(本の紹介週間)を通して、読書に親しむ環境を作る。 国語科による「ビブリオバトル」の取組みを通して、読書に取り組み、自分の言葉で本の魅力を説明するプレゼンテーション能力を涵養する。	本年も、前年からの様々な取組みに継続的に取り組むことができた。 また、ビブリオバトル全国大会の上位入賞者(ゲスト特別賞)を2023年度も輩出することができた。	様々な取組みは、読書自体に取り組む生徒の増加に寄与しているが、いわゆる、「名作」といわれる作品や多様なジャンルの作品に挑戦する生徒の数は昨年同様であった。生徒の読書「量」は確保しながら、読書の「質」の変化・向上にも取り組んでいきたい。
生 徒 指 導 全 般 の 見 直 し	校則の見直し 多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」の推進	生徒と教員が、現在の学校の改善点と今後の学校の在り方について話し合うための校則検討委員の設置。 支援が必要な生徒に対して、学年主任・養護教諭・SC・管理職が情報を共有し、その後の支援方針を定めるための「支援委員会」を設置し、毎週情報の共有を図った。	6月の「NEW EDUCATION EXPO」、7月の「関西教育ICT展」で、携帯電話に関する「校則検討委員会」でのルールメイキング活動を生徒の責任者(2年生)が発表。教育関係者に大きな反響があった。	本校の「校則検討委員会」での取組みが、対外的に大きなインパクトがある活動であることがわかった。生徒・教員共に、今後も自信をもってこの運動を継続していきたい。 「支援委員会」を定例化することで、各校務分掌間での情報の共有と目線を合わせた対応が可能になった。今後は、授業面で具体的な支援の方法を検討し実施していきたい。

【学校評価総括表】

大項目	中項目	重点項目	具体的な実践	評価平均値 上段:保護者、下段:教員	達成度評価 上段:保護者、下段:教員	評価の分析・実践と今後の展望
教育活動における重点項目	I「創造性豊かな世界市民」の育成	(1)「校訓」「指針」を学び、友人と語り合う中で、自らの行動へと結びつける	1. GRITでの学び(創立精神学習)をより深化させる	3.3	A	保護者からの評価は、2022年度より上昇している。教員としても、土曜日のGRITの時間を通して、創立精神について話し合う時間を確保できているという実感がある。各行事ごとに、「創立精神の学び」という観点での振り返りを行っていききたい。
			2. 「創立者とともに」を積極的に活用し、行動の規範にしていく	2.8	B	
		(2)「グローバルリーダー」としての資質の育成	1. GRITでの学び(探究学習)をより深化させる	3.1	A	2023年度は、中断されていた海外フィールドワーク(アメリカ・マレーシア)、国内フィールドワーク(長崎・広島・滋賀・東北地方)の取り組みを復活させることができた。今後、参加者の拡大を図り、さらに国際交流の機会を増やしていきたい。
			2. SDGsをより深く理解し、達成に向けて具体的に行動することを促進 3. 国際交流の機会を増やす	2.5	B	
		(3)英語力の強化(CEFR・B1レベル以上)	1. 基礎学力の定着の上に、積極的に英語を使う機会を増やす	2.9	B	本校高校3年生の、CEFRのA2レベル(英検準2級)相当、B1レベル(英検2級)相当の達成の割合は、共に全国平均を10%以上、上回っているが、実感として「英語が使える」というレベルに達していないことが、保護者の評価からうかがえる。英語を使う機会を増やしていくことにさらに取り組んでいきたい。
			2. 学園の語学教育資産を積極的に活用する	2.5	B	
		(4)ユネスコ・スクールとしての活動を活発化	1. GRITを通じてユネスコスクールとしての学びに取り組む	2.9	B	ユネスコスクールの取り組みが、一部の教員に閉じられており、広がりが少ないことが教員としての課題となっている。生徒会やクラブなどの別のチャンネルを使った活動も検討していきたい。2023年度は、ユネスコから紹介をいただき韓国の学校とオンラインではあるが、交流をすることができた。また、継続して取り組んでる里山保全の活動を今後も継続・拡大していきたい。
			2. ユネスコスクールとしての特色づくりに取り組む 3. ユネスコスクール主催の行事に積極的に参加する 4. ユネスコスクール間の交流を進める	2.5	B	
	II 確かな学力で生徒の可能性を最大限に	(1)生徒の興味・向学心を引き出す魅力ある授業の創造	1. Findアクティブラーナー等を活用し、自己研鑽に取り組む	3.1	A	授業については、保護者・生徒の双方共に評価が高い。今後は、生徒の多様な学びをいかに評価するかという視点を大切にし、授業を通して生徒一人ひとりがどのような力を獲得したのかをしっかりと見取っていききたい。
			2. 研究授業・授業公開を通して授業力の向上を図る 3. 先進的な教育手法を取り入れ、特色ある授業作りに取り組む	2.5	B	
		(2)各教科の授業に「探究」を導入	1. 学習指導要領の改訂に合わせ、各教科の授業に「探究」を導入する	3.1	A	授業時間において、教師がファシリテーターに徹することで、生徒の活動の割合が半分近くになっているという実感をもつ教員も出てきている。今後は、なにをもって「探究的な学び」が「成立している」とするかについての、教員間のコンセンサスを形成していきたい。
			2. 「多面的評価」を含め、評価方法を研究する	2.6	B	
		(3)家庭学習の定着により自学自習習慣の確立	1. スケジュール管理ができるように働きかける	2.9	B	オンライン授業下で家庭での「自主学習」のウエイトが上がる中、それを徹底しきれていない実感が2022年度までの教員の自己評価の低さ(自己評価ポイント2.2)に表れていたと思われる。3年生では、「サブリ通信」を活用して生徒の受験勉強での利用を促している。
			2. スタディサプリを積極的に活用する	2.7	B	
(4)キャリア教育の推進		1. 学年ごとに計画的な進路指導を実施する	3.0	A	本校の魅力の一つである、「多彩な業種で活躍する卒業生」というリソースを最大限に活用したキャリアガイダンスを始め、大学別説明会、歯医業懇談会等、生徒のニーズに応じたキャリアガイダンスを行うことができた。今後、保護者を対象としたガイダンスも考えていきたい。	
		2. キャリアデザインを通し、適切な将来設計を後押しする 3. キャリアパスポート、ポートフォリオ等を活用し、自己理解・自己管理能力を醸成する	2.7	B		
(5)豊かな読書環境の醸成		1. 教員の積極的な関わりを通し、名著・長編読了に挑戦する生徒を増やす	3.0	A	「Book Navi Week」の実施、ビブリオバトルの上位入賞者の輩出、図書館での各種取り組みなど、読書に関わる環境づくりに取り組むことができた。今後も継続し取り組んでいきたい。	
		2. 探究活動の中で、専門書などの高度な知識にアプローチさせる	2.7	B		
III 安心・安全の学校づくり	(1)キャンパス・校舎・通学路の安全確保	1. キャンパス・校舎・通学路の安全点検	3.1	A	生徒会を中心として生徒自らが当事者意識をもって、登下校マナー改善へ取り組むことができた。教職員の管理職による校内・校外の毎日の巡回点検活動が定着し、危険箇所の早期発見につながっている。	
		2. 学校内・通学路におけるルールの徹底 3. 感染症に対する予防措置の徹底	2.5	B		
	(2)生徒指導全般の見直し	1. 校則の見直し	2.9	B	携帯電話に関するルールメイキングについては、モデル校として他校でのルール策定の参考となる活動ができた。今後は、それらの活動を保護者へお伝えすることを通して、生徒指導の見直しの進展を実感していただけるようにしたい。	
		2. 生徒指導マニュアルの改訂・実践 3. 18歳成人に対する方針の徹底	2.3	B		
	(3)いじめ・暴力を未然に防止	1. アンケートや懇談を通し、生徒の声をよく聴く	3.0	A	生徒との懇談機会をさらに増やすために、職員室に懇談のためのスペースを拡大した。これからも、懇談やアンケートを通して、生徒の声に耳を傾け、生徒の変化に気づける機会を作っていきたい。いじめ防止基本方針の更新と共通理解をさらに進めていく。	
		2. 他人を思いやる心の育成 ※創立精神学習との連動	2.7	B		
(4)多様性を尊重し、思いやりの心を育てる「人権教育」を推進		3.1	A	今後、ますますニーズの多様化が予想される。様々なニーズに対して、学校として寄り添って共に考える姿勢を持っていきたい。		
		2.6	B			

※評定平均値は、保護者・全教員が4段階で評価した平均値。
 ※達成度評価については、評価平均値の3.0以上をA、2.9~2.0をB、1.9以下をCとした。